

わたしたちが考える 中沢浜貝塚歴史防災公園 — ワークショップを通して —

歴史防災公園の主な利用者は、
この地域に住む皆さんになります。
『どんな公園がいいのか』を一緒に考えて
つくっていくため、ワークショップを開催しました。

第1回（平成25年8月31日開催）

地域のいいところを見つけよう！

中沢浜貝塚を含めた地域全体の「いいところ」
「気になるところ」について、フセンに書き
出し、その活かし方について、グループごと
に話し合いました。各グループの作業内容を
発表して、全体で共有しました。



第2回（平成25年10月19日開催）

公園をデザインしてみよう！

白地図に絵を描いたり、フセンを貼ったりし
て、どんな公園がいいかを考えました。ワー
クショップの最後には、各グループの模型を
発表して、全体で共有しました。



第3回（平成26年1月30日開催）

公園のこれからを考えよう！

渡辺 誠先生（名古屋大学名誉教授）による
中沢浜貝塚についてのミニ講演会で、お話を
聞きました。
今後の維持管理スケジュール等について意見
やアイデアを出しながら、公園のデザインよ
りも、整備された後の日常利用や維持管理の
しやすさなどを重視して話を進めました。

VOICE

広田出身だが、嫁にくるまで
中沢浜貝塚のことを
知らなかった。学習の場
として提供し、子どもたちに
伝えていっていただきたい。



今 後 の 予 定

歴史防災公園としての整備の後、史跡調査を行い、
史跡公園としての整備を進めていく予定です。
また、市内の小学校では、このパンフレットを活用して、
中沢浜貝塚の学習を行います。今後も、調査などの進捗状況を報告し、
地域の皆さんとの対話を大切にしながら、整備を進めていきます。

陸前高田市 教育委員会 生涯学習課

〒029-2292 陸前高田市高田町字鳴石 42 番地 5
TEL 0192-54-2111

豊かな海と共に住み続けてきた歴史を
後世に伝える歴史防災公園

中 沢 浜 貝 塚

歴史防災公園



岩手県 陸前高田市



中沢浜貝塚 歴史防災公園

海と共に生きてきた歴史と、地域の安全を守る公園へ

国指定史跡・中沢浜貝塚は、広田半島の西側丘陵上に位置し、発掘調査により発見された縄文時代や弥生時代の土器、人骨が人類学の発展に大きく貢献してきました。

当時の人々の暮らしと自然との関わりを日常的に実感できる学習の場、また、災害時の地域の緊急避難先として、防災機能を持った歴史防災公園に整備されることになりました。

石に刻まれた教え



低いところに住家を建てるな
地震があったら津浪の用心
津浪と聞いたら慾捨て逃げろ
それ津浪機敏に高所へ 廣田村
石碑に刻まれた文字（昭和9年3月3日建之）

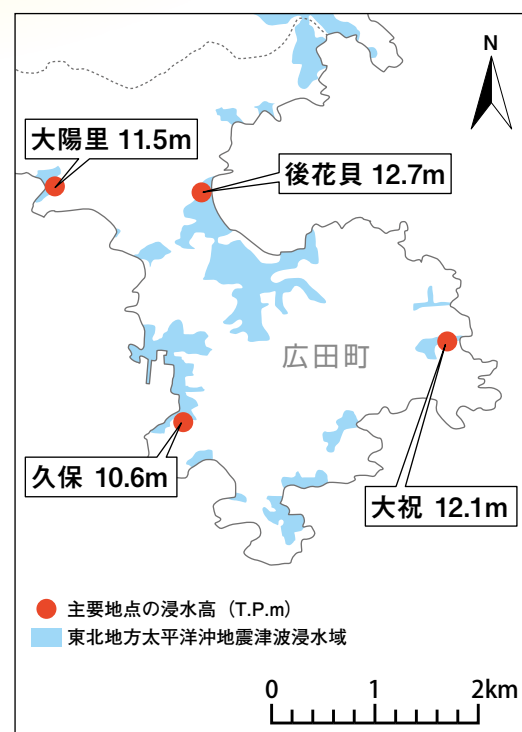
この石碑は、昭和三陸地震津波（昭和8年3月3日）の後、建てられたものです。石碑には昔の人の教えが刻まれています。広田町には、津波の教訓を後世に伝える津波記念碑が歴史防災公園北側の石碑を含め8基建てられていますので、ぜひ探してみてください。

震災を忘れない

東日本大震災とは

東日本大震災は、平成23（2011）年3月11日14時46分、宮城県牡鹿半島の東南東沖約130km付近三陸沖を震源とする東北地方太平洋沖地震と、それに伴って発生した津波により引き起こされた大規模地震災害です。

地震の規模はマグニチュード9.0を記録し、宮城県栗原市で震度7、陸前高田市で震度6弱など、太平洋岸の広い範囲で強い揺れが観測されました。この地震により、場所によっては最大で約40mにも上る巨大津波が発生し、東北地方と関東地方の太平洋沿岸部に大きな被害をもたらしました。



陸前高田市広田町の浸水範囲と津波の高さ
資料：陸前高田市 東日本大震災検証報告書 資料編(P.7)より作成

津波から身を守る

津波は くり返しくる



津波はくり返しおそってきたり、第2波、第3波の方が高く大きくなったりすることがあります。地形によっては波が集まり、思わぬ高さになることもあります。

より高い場所に 避難する



強い揺れを感じた時や長くゆっくりとした揺れを感じた時、また、揺れがなくても津波警報が発令されたら、すぐに海岸や川辺から離れ、高台に避難しましょう。

警報解除まで 安全な場所に



津波警報・注意報が解除されるまでは、安全な場所を離れないこと。戻ってはいけません。ラジオ、テレビ、防災無線などを通じて正しい情報を入手しましょう。

災害に備える

災害はいつ起こるかわかりません。災害が発生したとき、被害を最小限に抑えるには、一人ひとりが適切な行動をとることが大切です。災害発生時の避難場所や避難経路を確認し、集合場所を決めておくなど、日頃からお家の人と話し合っておきましょう。



非常持出品

災害時にすぐに持ち出せるよう、家族構成に合わせて用意しておきましょう。

- ☐ 防災ずきんや帽子・ヘルメット
- ☐ 懐中電灯・携帯ラジオ
- ☐ 非常食・水
- ☐ 底の厚い靴
- ☐ 衣類・タオル
- ☐ 救急医薬品
- ☐ 貴重品（現金、健康保険証のコピーなど）

ほかに
どんなものが
あると便利
だろう？



ただし、もし浸水区域内にいた場合は、一刻も早く避難してください。命の方が大切です。



豊かな海と共に住み続けてきた歴史を後世に伝える 歴史防災公園

防災公園とは、災害に備えたさまざまな機能を持った公園です。かまどベンチや、防災あずまやなど、いざという時に役立つ工夫がされています。東日本大震災の記憶を受け継ぎ、地域が一体となって貝塚を大切に守りながら災害時の避難場所となる公園に整備されます。

公園整備予定図

広田湾



避難階段

海側からスムーズに避難できるように階段が設置されます。階段をゆるやかにして手すりをつけるなど、高齢者や子どもでも昇りやすい設計です。また、光を蓄える性質のある材料を使うので、夜間でも発光し、安全に通行できます。

解説板



平成9年、この場所で貝や魚の骨などと一緒に発見された成人女性骨の特徴を紹介する解説板

みんなで一緒に考えながら整備されるんだね！

石碑



ふだんの様子



かまどベンチ

ふだんはベンチとして使用し、災害時には座る部分をはずすと、かまどとして炊き出しができます。

災害時の様子



ふだんの様子



災害時の様子



防災あずまや

ふだんは公園の休憩場所ですが、災害時はテントを張ることで、救護室や救援物資の一時保管場所、風雨を防ぐ場所として使います。

いざという時にあわてないよう、ふだんから防災施設の使い方をしておくことが大事だね。

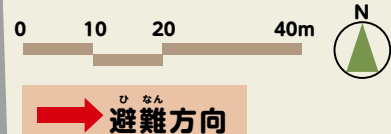


県道38号

中央園路
南園路

かまどベンチ

指定面積
約17,000㎡





大昔の暮らしをさぐる 中沢浜貝塚

中沢浜貝塚は、戦前の発掘調査で縄文時代や弥生時代の土器、石器、骨角器、甕棺が大量の貝殻や魚骨と共に出土し、日本の漁労技術や文化の変遷を解明するうえで貴重なことから、昭和9(1934)年に国の史跡となりました。



貝塚から探る、縄文人の暮らし

海と共に生きる文化

平成9(1997)年、中沢浜貝塚で貝や魚の骨などと一緒に人骨が見つかりました。赤ちゃん、20歳くらいの女性です。赤ちゃんは縄文時代前期頃(6千年～5千年前)、女性は、縄文時代中期頃(5千年～4千年前)の人と考えられています。

女性の骨を調べると、貝や魚を食べていたこと、関節炎に悩まされていたこと、子どもを産んだ経験があることなどがわかりました。身長は155.5cm位で当時としては背の高い女性だったようです。これも海の幸が豊富な中沢浜で栄養のある食生活を送っていたためではないでしょうか。

これまでの発掘調査によって、縄文時代初期から晩期まで続く貝層、数多くの釣針や銚などの骨角器や土器などが出土しており、当時の生活の様子を知ることができます。



骨角器
中沢浜からは多数の良質な骨角器が出土しています。釣針や銚頭などは現代の漁業で使われている道具に近い形をしています。出土した骨角器の中には全国的にも貴重なオオヤマネコの犬歯から作られた装飾品※もありました。
※現在は津波で流出し、レプリカが保存されています。



発掘された縄文時代中期頃の女性の骨
右肩あたりに、琥珀の玉と「石匙」と呼ばれる石器が交互に並んで見つかったことから、ペンダントのようなものを身につけていたと考えられます。



土器棺墓
壺の中に赤ちゃんの骨が埋葬されていました。貝塚に埋葬することで、生まれ変わってここに戻ってきたいと当時の人々が祈っていたと考えられます。

貝塚ってなんだろう？

縄文時代の人々は、自然を畏れうやまい、自分たちのまわりのもの全てに命があると考えていたようです。

貝塚を調査すると、貝殻や動物の骨と共に、土器や石器、ていねいに埋葬された動物の骨や人骨も発見されています。

貝塚は、すべての生き物の墓地であり、食料や道具への感謝の気持ちを込めて供養する、神聖な場所であったと考えられます。



中沢浜貝塚貝層



発掘調査の様子

中沢浜貝塚のことを調べてみよう。

どんな家に住んでいたのだろう。

何を食べて生活していたのかな。

どんな文化があったのかな。

中沢浜貝塚には、昔の人々の暮らしや社会を知る手がかりがあるんだね。

縄文時代の暮らしを考えてみよう。



狩りや漁の道具には、いろいろな大きさや形があるよ。どのように使っていたのかな。

中沢浜貝塚と三陸南部貝塚群

三陸南部は、外洋に出て漁をしていた重要な地域です。日本水産の基礎を作ったのは縄文人。貝塚はゴミ捨て場ではなく、人も一緒に埋葬しているので、来世も生まれ変わって欲しいという再生を願う祭りだったと考えられます。

縄文人の人骨を見ると、成人の際に健康な歯を抜歯する習慣があったことがわかります。これは当時、村の組織という社会システムがあったことを示しています。

中沢浜貝塚は、ただ貝がたくさんあるところではありません。海は危険が伴うところですが、それを理解して住み続けた人々がいました。ぜひ、プライドを持って、子どもたちにいいところだと伝えていってもらいたいと思います。



名古屋大学名誉教授 渡辺 誠 先生 講演「中沢浜貝塚と三陸南部貝塚群」より

M E M O

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

なまえ

陸前高田市 教育委員会 生涯学習課

〒029-2292 陸前高田市高田町字鳴石 42 番地 5
TEL 0192-54-2111

豊かな海と共に住み続けてきた歴史を
後世に伝える歴史防災公園

中 沢 浜 貝 塚

歴史防災公園



岩手県 陸前高田市

